

③ 協働の形態：その他（事業協力）（14件）

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
1	自分らしさ応援EXPO	単年度（新規）実施	苫小牧市の男女平等参画の気運を醸成させるため、苫小牧市男女平等を推進する市民会議に参加している企業・市民団体等と働きやすい職場のための取組紹介パネル展、男女平等参画を推進する動画作成、男女平等参画の変遷パネル展等を自分らしさ応援EXPOと題して実施した。	平等社会を推進するネットワーク苫小牧、苫小牧市町内会連合会、できることからはじめのいっぽ(IPP0)、苫小牧工業高等専門学校 外18団体	令和 3年10月 1日～ 令和 4年 3月31日 (動画視聴) (約1,600回) 令和 3年10月 1日～ 令和 3年10月 8日 (働きやすい職場のための取組紹介) (不明) 令和 3年12月17日～ 令和 4年12月18日 (男女平等参画の変遷パネル展) (89人)	苫小牧市の男女平等参画の気運の醸成に貢献できたと考えられる。
2	「053（ゼロごみ）の日」（春・秋） (ゼロごみ推進課)	例年実施（昭和62年頃から継続実施）	昭和62年度より、大掃除月間中の日曜日を、清潔で住みよいまちづくりのため、自主的に清掃を行い、環境美化と清掃意識の高揚を目的に「まちをきれいにする日」と定めた。以来、全市一斉に付近の道路・公園・空き地などの清掃を実施。平成24年度から「ゼロごみの日」と改称。	町内会、自治会、事業所、学校、子供・老人クラブ等	令和 3年 4月18日～16日 (124団体8,313人) 令和 3年10月 1日～31日 (186団体13,183人)	
3	苫小牧市環境美化活動事業 (ゼロごみ推進課)	例年実施（平成27年頃から継続実施）	苫小牧市内の環境美化を目的とし、市と町内会（自治会）が協働して事業を実施。 (1) 地域の大掃除 (2) 不法投棄又は不適正排出のパトロール (3) 文書の配付又は看板の設置等による啓発 (4) 折りたたみ式ごみステーション設置の取りまとめ (5) ごみステーション周辺の清掃又は花壇の設置等による環境整備 (6) 団体間における環境美化に係る意見交換又は協議	町内会・自治会	令和 3年 4月 1日～ 令和 4年 3月31日 (約15,000人)	環境美化活動を町内会（自治会）と協働で実施することで、地域事情に応じた取り組みが可能となり、その結果、市民の環境美化への意識が高まった。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
4	「突撃！とまエコ企業」動画制作 (環境保全課)	例年実施（令和2年頃から継続実施）	苫小牧市内の企業におけるエコな取組を取材し、作成した動画をインターネット上で公開することで、市民への環境啓発を行う。 公開方法：苫小牧市公式YouTubeチャンネルにアップロード 周知：環境保全課HP、Facebook、LINE、庁内インフォメーション、推進会議委員への文書送付	日本CCS調査株式会社、大鎮キムラ建設株式会社	令和 3年 8月30日 令和 3年11月29日	動画としてインターネット上に公開したことにより、市内企業の有益な環境情報を幅広く発信することができ、市民への環境啓発につながった。
5	室蘭工業大学と苫小牧市テクノセンターとのCTプラットフォーム連携紹介オンラインWebセミナー (テクノセンター)	単年度（新規）実施	室蘭工業大学とのCTプラットフォーム連携を構成する3台のX線CT装置、およびCT解析装置ソフトウェアの利用促進を図るため、これらの装置の活用に関する入門向け技術セミナーをオンラインにて実施。	室蘭工業大学、（公財）道央産業振興財団、ブルカージャパン（株）、（株）ニコン、東芝ITC（株）、ボリュウムグラフィックス（株）	令和 3年 9月14日（71人）	自動車、金属製品、一般機械器具など、苫小牧地区の製造業等にとって非常に有用な検査装置である。これらの装置を活用するための基礎的な知識を学ぶことにより地域企業の技術力向上を図ることができた。
6	CTプラットフォーム連携セミナー「超微細四次元X線CT解析装置 操作講習会」 (テクノセンター)	単年度（新規）実施	室蘭工業大学とのCTプラットフォーム連携の一環として、テクノセンターに導入した超微細四次元X線CT解析装置（ブルカージャパン（株）製 Skyscan2214）の利用促進を図るため、参加企業毎の装置操作法に関する講習会を実施。	室蘭工業大学、（公財）道央産業振興財団、ブルカージャパン（株）	令和 3年10月20日（7人）	企業枠別の専門的な技術講習会を実施することにより、自動車、金属製品、一般機械器具など、苫小牧地区の製造業等にとって実践的な技術力の向上を図ることができた。
7	異物分析オンラインセミナー「フーリエ変換赤外分光光度計、可搬型蛍光X線分析装置」 (テクノセンター)	単年度（新規）実施	テクノセンターに導入した有機化合物の分析装置であるフーリエ変換赤外分光光度計、および無機化合物の分析が可能な可搬型蛍光X線分析装置の利用促進を図るため、装置の概要および分析手法に関する入門向けのオンラインセミナーを実施。	（公財）道央産業振興財団、オリンパス（株）、サーモフィッシュャーサイエンティフィック（株）	令和 4年 1月27日（49人）	苫小牧地区の製造業等における製品への異物混入対策等に関して、入門的な技術支援を図ることができた。
8	フーリエ変換赤外分光光度計（FT-IR）操作講習会 (テクノセンター)	単年度（新規）実施	テクノセンターに導入した有機化合物の分析装置であるフーリエ変換赤外分光光度計の利用促進を図るため、申し込み企業枠別の装置操作講習会を実施。	（公財）道央産業振興財団、サーモフィッシュャーサイエンティフィック（株）	令和 4年 3月 2日（6人）	個別の企業毎に研修会を実施することによって、有機化合物の分析技術に関して高度で専門的な内容にも対応することができた。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
9	可搬型蛍光X線分析装置 操作講習会 (テクノセンター)	単年度(新規)実施	テクノセンターに導入した無機化合物の分析装置である可搬型蛍光X線分析装置の利用促進を図るため、申し込み企業枠別の装置操作講習会を実施。	(公財)道央産業振興財団、オリンパス(株)	令和4年3月9日(11人)	可搬型タイプの装置であることより、製造現場等における金属材種の特定制や異物混入対策等において、高い効果を発揮できることを学ぶことができた。
10	公園等里親制度(苦小牧クリーンアップサポーター制度から名称変更) (緑地公園課)	例年実施(平成14年頃から継続実施)	苦小牧市が管理する公園、緑地及び道路等において市民等のボランティアにより、環境美化活動を行うなかで、清潔で美しい街づくりを進めるため。	24団体、1個人 登録人数 957人 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(4,228人)	道路や公園などのゴミ拾い以外にも、パークゴルフ場の草刈や桜の施肥などの活動も行っており、環境美化だけではなく維持管理の充実にも寄与している。
11	定例おはなし会 (中央図書館)	例年実施(平成元年頃から継続実施)	図書館ボランティア読み聞かせグループ等の協力を得て、子どもたちの読書活動の推進を図る。	図書館ボランティア読み聞かせグループ等	令和3年4月～令和4年3月 (延べ280人) 「新型コロナウイルス感染拡大」の影響により臨時休館となった際には中止。	定例の図書館事業であるが、継続的な読書推進事業として欠かせない事業。定期的に図書館へ足を運んでもらう事により、参加者同士、参加者とボランティアとのコミュニケーションの場としても活用されている。
12	青空子どもとしゃかん「そらがある！なにいろ？えほんがある！どんなの？またあえたね」 (中央図書館)	例年実施(昭和62年頃から継続実施)	図書館と図書館の読み聞かせボランティアグループが協力し、図書館入り口前、公園において、各団体のおすすめ本の展示を行い、貸出をした。 合わせて、マイクを使い適度な距離をとって絵本の読み聞かせを行った。 子どもたちに、夏の暖かい気候と文化公園の自然のもと、野外で本を選んでもらうことで本に興味をもってもらうきっかけにしたい。	にじのはし 苦小牧子どもの本の会でんでんむしサークル	令和3年8月5日(105人)	天気に恵まれ、熱中症などの大きなトラブルもなく、子どもたちも保護者の方も珍しがって楽しそうにしていた。コロナ渦でよみかせが難しい中、マイクを使い適度な距離をとって実施もできた。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
13	本のばくりっこ市 (中央図書館)	例年実施(平成22年頃から継続実施)	図書館と図書館ボランティアグループ等が協力し、図書館に寄せられた本と市民の持ち寄る本を交換することで、本の再利用と図書館の利用促進を図る。	図書館ボランティアグループ	令和 3年 7月31日(102人)	毎年好評の事業で市民、ボランティアの方々に認知されている事業である。ボランティア同士の交流の場としても活用いただいている事業であり、読書推進と市民協働の両面で効果を生み出す事業となっている。 コロナ感染拡大防止のため、30名ずつ会場に入れるかたちを取り、対応した。
14	苫小牧市美術博物館ボランティア運営登録事業 (美術博物館)	例年実施(平成24年頃から継続実施)	美術や博物事業に関する見識や熱意を有する方々の協力を得て、市民と協働した美術博物館活動を組織的に推進し、館事業の円滑な運営を図るため、ボランティア登録制度を導入し、活動を行うために必要な支援を行う。	苫小牧市美術館友の会	令和 3年 4月28日(31人) 令和 3年 7月30日(18人) 令和 3年10月 8日(22人) 令和 4年 1月14日(17人) 令和 4年 3月13日(22人)	各展覧会において、案内・監視業務をしていただいたことで、職員の業務負担が軽減されるとともに、展示室内の変化にいち早く気付き、対処することができた。監視業務においては、来館者の反応や展示に関するご意見を学芸員に伝えていただいたことで、細やかな対応をすることができた。また、年5回実施した研修会では、当館の事業に対する理解を深めていただけたと同時に、展覧会前の展示解説等は好評を得ている。